



地域の一員としてしあわせをみんなで作る



藤木病院 中武裕児

平成29年度医療社会事業研修会に参加してきました。

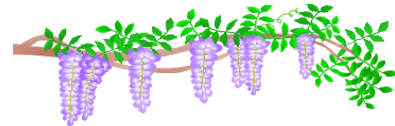
今回は、何かと話題に上がる「地域包括ケアシステム」が研修テーマになっていました。午前午後と講義は行われましたが、午後に行われた肝付町地域包括支援センターの保健師兼主任介護支援専門員である能勢佳子先生の講義について感想を綴りたいと思います。

能勢先生はお隣の鹿児島県肝付町にてアグレッシブに活動されていらっしゃいました。高山町と合併した肝付町の人口は1万6千人。高齢化率40%目前の地域。山間部と海岸沿いもあり、町内を南北に車で移動するのに2時間もかかる地域。こんなに広い範囲を包括職員として駆け回りながら、この地域に住む住民一人ひとりが地域の一員として活躍する働きかけを行い、それが実現している地域です。

「自助・互助・共助・公助」と言われますが、これを実践するためには並大抵の努力では成しえない事ではないかと、能勢先生の話をお聞きしながら感じておりました。

私事ではありますが、この肝付町には思い出があります。私が鹿児島にて仕事をしている時の恩師が、この肝付町に自宅を構えておりました。この恩師とはある年の大晦日に突然のお別れをする事になりました。入浴中の心筋梗塞…。救急車を要請するも到着まで時間が掛かり、さらに搬送までに時間が掛かり帰らぬ人になってしまいました。お墓参りに行った時に、こういう土地柄だったのかと分かり、救急搬送に時間が掛かった事は仕方がなかったのだと理解したのはこの時でした。

このような経験をしつつ、能勢先生の話をつき、当然全てが整った地域ばかりではない。だからこそこの土地柄を把握して、問題点を明確にしてから人を育て、制度を育て、住民自らも支えあう地域作りが必要なのだと思いました。大好きな恩師が眠る肝付町から、改めて医療福祉で働く事の意義を教えて頂きました。



平成29年度医療社会事業研修会

西都児湯医療センター 西 佐知子

今回の医療社会事業研修会のテーマは「地域包括ケアシステム」について開催された。

午前中は、吉村教授により『医療社会事業従事者の地域包括ケアシステムにおける役割』について、①先生が実践された事例から、②世界の潮流、日本の先端から、③地域で仕掛ける、地域で育てる、という視点から学んだ。吉村先生が行なっている地域医療は、場所、時間、診療科、役割を問わず実践されているため、一連の流れ、背景が細やかに理解できた。また『生活モデル』の目線の大切さ、各患者様の生活の特徴に沿った支援というものを実際の事例から学ぶことができた。今後自分の役割を考えると、地域医療で関わる多くの医療・介護従事者の流れの一端をサポートするようなスムーズな情報提供を行なっていくことなどが考えられると思う。『生活モデル』に対しても、病院における医学モデル・治療モデルと『生活モデル』を混合した目線を持つことの重要性を感じた。

午後からは、『ベースキャンプをつくる』医療過疎地域での多職種連携取組事例を能勢講師により説明いただいた。長年、地域住民と深い関わりを持ってこられた能勢講師から、地域包括ケア、多職種連携において要点となるキーワードを学んだ。「想いの統合」「住民さんも多職種」「地域が多職種を育てる」「ともに学びビジョンを描く」「物語に寄り添う」「『今あるチカラ』を保ちつながりを守る」すべてのキーワードが地域の一員として住民が主体である。実際の取組み、活動内容もこのキーワードが実現されていた。それには地域包括支援センターの体制づくり、明確で緻密な将来像、基本理念、基本目標の設定があることを知ることができた。

グループワークは、『地域包括ケアシステムで大事なこと、自分の役割』について多職種で検討し、連携方法や、そのためのツール作成の必要性などの意見が集まった。多職種連携の大切さを理解した等の意見が多く、今回の研修が落とし込めたグループワークになったと感じた。日頃の職務においても研修で学んだことを交えながら、今後もソーシャルワーカーの役割について考えを深めていきたい。



平成29年度 MSW初任者研修を終えて



野崎東病院 今林 ちか

今回、初任者研修に参加させて頂き、MSWの仕事はとても幅広く、様々な役割がある仕事であると感じました。患者さんの支援に必要な制度についての知識の習得はもちろん、社会資源の活用や人と人を繋ぐ役割、他職種との連携等MSWの対応によって患者さんの選ぶ道が変わってしまうこともあるとても責任ある仕事であると思いました。

また、患者さんへより良い支援を行うためには患者さんと信頼関係を構築するだけでなく、院内の他職種、外部の機関等様々な人との信頼関係や信頼してもらえらるための努力が必要であるということも教えていただきました。さらに、目先の課題のみだけでなく患者さんの生活を考え柔軟に考えていくことも必要であることがわかりました。

事例検討のグループワークでも、一つの方法や考えにこだわらず、解決の理想に近づけるためにはこんな方法もあるかもという発想やキーパーソンの選定のし直し等いくつもの方法で考えてみることも大切であることがわかりました。研修終了の満足感で終わらず、教えていただいたことを活用していけるように出来ることから勉強を続けていきたいと思えます。今回、本当に貴重な機会を与えていただきありがとうございました。



千代田病院 長友 春菜

初任者基礎研修で一番重要だと感じたことは、医療ソーシャルワークを行うときに根拠を持つことです。今後、患者さんや家族へ話す時はもちろん、他職種と関わる時も、自分の考えに根拠を持ち、ぶれない姿勢を取ることを意識するようにします。ラポール形成のためにも、どんなに小さなことも自分の中でかみ砕いて、根拠を持ってから取り組んでいこうと思えました。また、退院支援には、希望する生活を可能な限り支援することも大切である一方で、本人・家族のストレングスを見極める冷静な判断も求められることを学びました。本人・家族の気持ちを尊重しながらも、可能な事と不可能な事の判断を行い、安全に生活が送れるように支援しなければならないのだと思えました。

研修全体を通して感じたのは、自分の勉強量が足りていないこと、どんどん変化していく地域社会の実情に敏感でなくてはならないということです。先輩方に教えていただいたことを普段の業務に生かし、早く地域社会に貢献できるよう努力していきます。1年間本当にありがとうございました。

お知らせ！

平成30年度総会および研修が開催されます。

日時 平成30年6月2日(土) 午前10時～午後4時まで(9時30分～受付開始)

場所 宮崎市民プラザ 大会議室

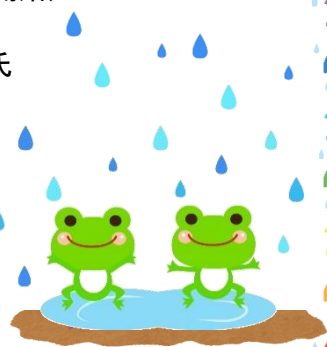
講師 医療法人静光園 白川病院 相談支援包括化推進委員 竹下 一樹 氏

宮崎市認知症地域支援推進員 大迫 健二 氏

都城市認知症地域支援推進員 渡辺 夏美 氏

テーマ 『認知症にやさしいまちづくり ～私たちにできることを考える～』

総会は午前中、研修は午後から開催します。多くの参加者をお待ちしております。



編集後記

日中は汗ばむくらいの初夏の陽気が続きますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？今年の4月には、医療と介護の大きな改正が行われました。ソーシャルワーカーの皆様はその対応に追われたのではないのでしょうか？

国は、サービスの充実を図る一方で、持続可能な社会保障制度の構築も行う必要があります。そのため、分野によっては減算等の厳しい措置をせざるを得ません。しかし、その政策が現実からズレている場合、時に利用者の方々の不利益に繋がる恐れがあります。このような時に国に対して「No」と声をあげることも私達ソーシャルワーカーの大切な役割です。所謂、「ソーシャルアクション」です。このことは、ソーシャルワークのグローバル定義の中にも、中核的な役割として記載されております。今一度、ソーシャルワークの定義や倫理綱領を読み返してみるのも良い気づきに繋がると思えます。

最後になりますが、この2年間、出版部として活動させていただきありがとうございました。これからも宮崎県医療ソーシャルワーカー協会をよろしく願いいたします。 出版部 大谷 黒木 甲斐